明治廿六年四月六日印刷
明治廿六年四月七日出版

婦人衛生雜誌

第四拾壹號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雑誌
第四拾壹號
目次

講演

◉産の話　ドクトル　朝山義六君
◉眼鏡の利害に就て　醫學博士　宮下俊吉君
◉耳病者の心得　醫學士　賀吉鶴所君

衛生叢談

◉啞生の耳
◉種痘に關する注意
◉種痘の効力及種痘中の注意
◉傳染病研究所の建築
◉コッホ腋の注入
◉大日本私立衛生會常會
◉妊娠と題する第參拾九号の續き
◉流行性感冒
◉婦人衛生會總會

大日本婦人衛生雑誌
第四拾號
目次

講演

◎神系の經濟（前号の續）　醫學士　三浦謹之助君
◎實布垤里亞に就て　山谷德治郎君

衛生叢談

○內務省令第一號
○石灰水と牛乳
○北里博士の發明したる事業
○傳染病研究所
○大阪府飲水無手數料試驗
○電氣消毒法を施行する意見
○ニッケル食器の注意
○北海道士人の食物
○漢堡港虎列剌再發
○麻疹と實布垤里亞
○柳下衛生課長の歸京
○衛生課長天然痘談
○梅毒蔓延
○三人不具
○傳染病患者
○北米合衆國陸軍文庫大に我醫學に關する各新聞雜誌類を購收せんとす

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第四拾壹號

（明治二十六年四月七日發兌）

講演

産の話

朝山義六君

私は、皆樣に始めて御目通り致します、久しく遠方に參ッて居りまして、つい此間歸つて來たもので御座いますから、本會に出ますのも丁度今日は二回目で御座います、尤も前回には、紅葉館で御開きに成りました慈善會の席末に列する事を得ましたので御座います、然るに私は、是まで貴婦人方の前に於て、演説或は御話しを致した事が御座いませんから、何となく恐怖の念が御座いまして、兼ねて訥辯の處猶御聽苦しい廉も澤山御座いませうが、暫時御淸聽を煩はします。

素より頓帳芝居のペイ丶丶俳優で御座いますが、何か一つ旨い演題を設けてお話しを致し、皆樣の御喝采を得たいと思いましたが、何分腹の中に考へて居る十分の一も口には出ません樣な譯で御座いますから萬一御解りにならない處は、何卒御推察を願ひます。

偖豫ねて演題に掲げて置きました通り、産の御話しを致します、併し産と一槪に申すと、貴婦人方の前では、少し申し上げ惡ひと思ひますが、元來衛生と云ふとは、醫學と密着して居つて、離すべからざるもので御座いますから、此事を申し上げたからとて、強ち卑見と許りは思はれません、併し若し御聽き苦しい所は御取捨てを願いたい、其上に産の御話しをすると云ふ、大層お前觸れを致して置きましてね、何分職人の事で御座いますから（職人と申すと些と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

可笑しい樣では御座いますが、開業して居る醫師は職人も同樣です）からだを一生懸命に動して、日々せわしく自分にのみ擀けて居りまして、愈々産の御話しを致すと云ふとだけは申し上げても、其實は充分なる草稿が出來て居らぬので御座います

本題即ち産と云とは、御承知の通り獨り人間のみならず、天地間に在と有らゆる動物に在る所の生理的の機能で、天然自然の事で御座います、併し今日御話し致すのは、人体上の事で有りまして、他の動物界のとは存じませんから、話せと仰せられても申上げるとは出來ません、元來此産には、同じ天然の中でも、極く自然の力を經まして安々と生れますのと、又天然の力で終る事が出來ずして、人の力に依て出來るのと、二つの種類が有ります、如何なる動物でも、此世の中に生活致して居つて、男女の區別が有る以上は、無論産と云ふとは免かるべからざるとである、而して天然の力で産氣を終へると云ふは、一般生理の本源で有ります、併しながら生理の本源も悲しい哉人間には一の才智即ち精神と云ふものが御座います、それが頻りに作用き、人事の交際、職業等、總べて才智の爲めに作用かせらるゝ處のからだで御座いますから、精神の感動即ち作用きから、天然の産を終へる事が出來ぬとが屢々御座います、是に因りまして、漸々國が開け文明に趣くに隨つて、事々物々頻繁く爲る、頻繁に爲ればなる程産は益々重くなる、故に文明諸國に於きましては亞弗利加の樣な野蠻的の國より、却つて産が重う御座います、最も産の範圍の事に就きましては、余り長くなりますから今日は申し上げません。

一体産と云ふものは、精神の感動が非常に關係致します爲めに人力を借りなければ、産を終へるとは出來ない、元より天然に無くてはならん一の機能で御

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

座いますから、腹の中に出來たものは時が來れば出ると云ふは當前の咄しで、今私が喋々と申し上げずとも、分り切つたことで御座いますが、そこに種々の原因が有ると、他の尋常一樣の產とは大きに工合が變つて參ります、其時に爲す事も知らず、只々狼狽する樣なことがあると、產の爲めに一身を終らなければならん事が御座いますから、其工合をお話し致して置きます、恐らくは事陳腐に屬し皆樣御存じで有らうと思ひます、よし皆樣は御存じにせよ、知らぬ他人に御傳へを願ひまして幸に多少稗益を致しましたならば、有難ひ事で御座います。

臨產の時の御話しを致す前に、姙娠中の事を一寸申し上げます、婦人が姙娠致しますと、世界萬國、其國古來より傳はりたる所の慣習、幷に其人の性質に因て來る處の慣習或は獨逸語で申せば「ナアダプラム」日本語では何と譯しますか……………先ツ御幣擔ぎなども其中に這入りて居ります、平日自分が想像して居る所の種々ある考へから、姙娠中に樣々の害を起します、元より害と知りつゝ致す譯では御座いませんが、產婦が心の中に何うか安々と產をして、生れた子も丈夫で、且自分のからだも早く達者に爲りたいと思ふ所から、色々の考へを起します、それが大變に害を起します、併し此事は一々申さすとも、世間の話しで御座いますから、御老人方から御聽きになつて、充分御承知て御座いませうから茲には擧けません。

其外姙娠中に最も目に就て害を及ぼす事は繃帶で御座います、全体始めに御話しした如く、產と云ふは天然の機能で、必らず人間の爲すべき事で御座いますから、御腹に出來た子が帶を締めないからとて、によき〳〵大きくなると云ふ理屈は無い、帶を締めないにせよ、締めたにせよ、大きく成るべきものなら

ば、成る限りはなります、腹の中で成育して、もう娑婆に出て來ても、一人前の人間に成る事が出來ると云ふ樣になつてから、生れ出るので御座いますから帶を締めた位いで、大きく成るべきものが小さくなつて居ると云ふ筈は無い故に腹帶の爲めに、胎兒の發育を妨げると云ふ程の事はないが、併し腹帶の害と云ふは、締め樣が惡るいと、折角胎兒の位地が正しくて安々と生るべきものも、爲めに位地を變し、大害を引き起しますから、此事は斷然廢したいと思いますが、是れも古くからの習慣で、中々廢す事が出來ない、然らば古より何故斯う云ふ事を仕來つたかと云へば、此腹帶は觀音樣から授つたと云ふ、所謂一の精神から起つた所の感動で御座いますから、實際觀音樣にそう云はれた人は仕方が無いが、又聞の御方は「私しには觀音樣が授けて呉れないから締めない」と云ふ御考を以てお廢しを願ひたい。

又妊婦の擧動に因つて、屢々胎兒の位地を變ずる事がある、又腰痛腹痛を起し杯すると、胎兒の位地を變じ、或は惡阻、又一種惡阻時を過ぎ去りましたから胎兒の地位を變じます時に、大層精神に變化を起します、故に若しそう云ふ事が御座いましたならば、早速醫師に御見せになつて、胎兒の位地が變じて居るならば、直してお貰ひになるが宜しい、そう申すと、何だか我田に水を引く樣で御座いますが、其所は御察しを願います。

斯の如く腹帶は必要の無いもので御座いますが、他に一種必要なる腹帶と云ふものが御座います、胎兒が漸々成育して、胞衣が發育して參れば、少々の事では胎兒の殪れる樣な事は無いが、始めの中は冷へない樣に、始終腹帶を締めて居るが宜しい、又懷姙中は外に出ないと云ふは、古からの慣習で御座いますが、是は大變な間違ひで有ります、元より產と云

ふは天然の事である、然るに姙娠中は外に出るな杯と、そんな束縛を天より受けた事はない、却つて姙娠中は適宜の運動を取るが宜しい、此事に就ては百二三十年前我國醫師の先祖とも稱すべき、賀川せんていと云ふ人も是等の弊害を唱へて居つた又大古、今より千五百年以前の日本では、腹帶坐つて產をする、或は產器と稱へて產の爲めに別段に用ひる椅子等は無かつた、然るに人智が開くるに從つて、種々樣々の想像が起つてあゝしたら宜からう、斯うしたら產み易すからうと云ふ考へから、腹帶、坐つて產をする等さまぐ\に工夫しましたが、是は學理上より推究した事でないから、益はなくして多くは害になります、又德川時代には產をする時は一つの產器を拵へて、自分のからだが座つて這入る樣にして、其下には引出しを附けて置いて、そこに種々ある汚物を落す樣に致して置く、如何にも斯う云ふ樣な產の仕樣では、若しも大出血を起す樣な騷ぎが起つても、是を救ふ事が出來ません、故に賀川先生も頻りに此事の弊害を唱へて居りましたが、慣習は第二の法律で、何うしても之を打破ぶる事は出來なかつた、而巳ならず今日に至ても多少此慣習が殘つて居りますから、皆樣方も、御互に出來得べき丈け慣習を取除き、改良して往かなければなりません。

贅語は偖置きまして、愈々臨月に成つてから、最も注意しなければならんのは產婆で御座います、一体我邦では、產婆の養成が、區域外に涉り過ぎて居る樣に思ふ、何故かと云ふに、產婆に向つて醫師の爲す事の一部分を敎へます、凡べて誰れでも、人は自分の知つた事を世の中に傳へて見たいと云ふのは、誰れしも同じ事であるが、生兵法は大傷の基で、案外に害を及ぼします、即ち產婆が產婦に向つて、醫師の爲すへきとを施して見たいと思ふ考が御座い

ます、施してもそれがうまく往けば宜しう御座いますが、一寸間違うと大變の害を起します、獨逸では四十年前には産婆の養成が、恰度現今の我國の樣で御座いまして、産婆の養成の度が進み過ぎたので、悲しいかな弊害か赴つて來た、爲めに段々學者識者の注目する所となり、何うか本に復したいものであると思へと御承知の通り進まないとを進ませるは、容易いが、進んだものを一時に引込ませると云ふは、中々六ケ敷い事で御座いますから、容易に本に復りませんで、漸く四十年の今日に至つて、此度ならば産婆を養成しても宜からうと云う樣になつた、我邦の産婆の養成も少し度を過して居る樣で御座います併しこんな事を申しては、産婆諸君に對して甚だ濟みませんし、又決して我國には前申うす樣なとはあるまいと思ひましたが、實は私の歸朝後に於て、屢々目擊するとがある、則ち産婆に就て、あにが一番恐るべきとであるかと云うに、今日の醫術上では消毒と云うとが余程助けをして居る、「リストリシス」の消毒法が、追々盛になつて以來、脹滿胃崩等の重病に、治療を施すとが出來て、一度疾めば生命も危き程の病も、再び健康体となるとの出きる樣になつたのは、全く消毒法の力であります、殊に婦人病、即ち産に於ては最も消毒法が必要である、分娩の際は諸所に傷が出來ますから、少々の毒でも忽まちからだの中に吸ひ取られます、それ故産婆あるものは、充分に消毒して呉れゝば宜しいが、万一過つて、爪の間抔に毒が御座いますると母体に大層の害を及ぼして來る、既に西洋で試驗を致しましたのに、十五分間爪の間の垢を取り又十五分間昇汞水で洗つて、其上て顯微鏡で見まするとまだ一バクテリア」が居る、一に爪のみならず、理の間にも、其外産婦の傍に在る物は、皆毒ならざるはなく、是れが

母体に這入りますと、害を致すものばかりでは御座います、依て産婆を選ぶには殊更に注意しなければならん、之は一体産婆に申す事で御座いまして、皆様に申上けることでは御座いませんが、産婆と云ふ者は危險なもので有る、微妙の中に一種固有の物が有つて毒を傳へますから、産婦が産婆に接しまするには余程注意し、産婆の手と云ふものはさう怖いもので有るかと云ふ事を御存じで有れば、さう云ふ場合に御注意なさることが出來ます、以上申し上げる通り、消毒法は産に最も必要で御座います、産後の熱即ち産褥熱と稱へるものは、極く危險なことで御座いまして消毒法が大變に必要で御座います。

又産と云ふものは大層に穢らはしいとの様に古から思つて居りますが、それ程汚らはしい麁末のものならば、自分も生れて來ないがよいし、又生まぬが宜ひ、併し決して不潔でもない麁末でもない若しも人間のからたの物が麁末なれば、物を喰ばんで居らねばならぬ、決して産と云ふものは不潔な物ではなく奇麗清淨なる事で有るのを、之は抑も如何に御産と云へば不潔なることとして、之に用ひる物すらも極く不潔なる物を以てします、則ち蒲團の上に布きまする襤褸の中には、目には見へないが、産婆の手よりは猶一層恐るべき所の不潔物を含んで居りますから是も斷然廢して仕舞はなければならん。

それから胎兒が生れます時に、僅かの加減で命を失なはなければならぬ事が有るさうして其死んだ者の中には、釋伽や孔子の様な聖人、秀吉の様な豪傑が有つたかも知れないに、死なんでも宜い者を殺さんければならんことが有る、それは如何なる譯であるかと云ふに、生れました時に、臍の緒と云ふ物を胎兒の首に卷き附けて居ります此事に就て一のお話しが有る 私が以前西洋に參りまする前に、或る所より

「産氣附いたから來て下さい」と申して參りましたから、往つて見ました處が、其時居合せた産婆はヘイ「何うも首に臍の緒が巻き附いて居りますから宜しく御願申します」と云つて恬として顧みない私も其時は、臍の緒と云ふものが首に巻き附いて居つては、もう助からぬものと思つて居りました處が豈計んや、私は遂に一の罪人と爲つた、何故かと云に、其時臍の緒を切つたならば助かるべきものを、産婆が時間を經過させましたから遂に死にました、此位の事で、最愛の子供を亡くしては實に遺憾の至りで御座いますから、素人方も此位いの事は豫め御心得の有つた方が宜しい、凡てかゝる事は醫師のなすべき事であるが、不便な土地で、醫師の家にも遠いと云ふ樣な場合には致し方も無いが……成るべく産婆は恐るべき手を持て居りまするから、醫師に向つて治療を請はれる方が安全であります、其外胎兒の發育が惡るいとか、或は骨盤の工合に依て、急に生れない時には、殊に因ると窒息をして生れ出ても、をぎやアと云はない事なども有りますが、それは治療を施せば癒る事で有りますから、何でも産をするにも、是は醫師の區域、是は産婆の區域で有ると云ふ事を能く正して……「なあに私の産は前の産も極く輕るいから、今度も輕るいに違ひない」と云ふ臆測は斷然やめて、産の時は醫師を引附けて置く方が、安心の仕方が有らうと信じます。

そこで産の仕樣で御座いますが、最早貴婦人方は御存じて御座いませうが、兎角我國の産の仕樣の、十の八九は學理上に基いてするのではなく眞に舊來の位置を取つて居るのみである、其舊來の位置とは何う云ふ位置かと云ふに、室内に薄暗くして、座つてするのが、日本の風で有りますが是は實に恐るべき害が有る、最も世界万國、何れの國に於きましても

最初の考は皆同じの樣に思はれます、と云ふは實は今日、諸國の産床の位置の圖を持て參りましたから、御覽に入れます、（圖を示す）是は丁度五六百年前の、獨逸の産の仕樣で御座います……シテ見ますると獨逸では以前は日本の習慣と同じで有つたらふと思はれます。

それで段々逆登つて、未開の未開と索ねて見れは、國の未開なる程極く危險なる位置で産を致します、何處にても國が文明に趣くに從つて、産床の位置は變遷して來たものと思はれます。

「セナアン」と云ふは、印度で御座いますが、ソコデは産床の位置は斯う云ふ風で御座います（圖を示す）御覽の通り、木の枝に自分のからだを縛り附けて置いて、下から産婆が子供を受取ると云ふ体裁で御座います。

墨牙西其邊の産の有樣を見ると、是は日本で産をする時に子安の觀音樣や、其外色々の神樣を釣るして置くのと、同じて御座います（圖を示す）墨牙西其では今でもさう云ふ風に致して居ります。

其外今尙は少しも古に變らないのは、則ち波斯では斯う云ふ産の位置で御座います、（圖を示す）産と云ふものは、不潔な物で有るから、家の中で産をしては神樣に祟ると云ふ樣な考へから態々砂原に往つて御産を致します。

それから中央亞弗利加の「ニャム」「ニャム」邊りでは産をするには川の傍に往つて致します、そして其川で汚物の洗濯もし不潔物は皆川に流して仕舞ひます（圖を示す）又其時には其人の朋友が五六人集つて一人はりう〳〵苦んで居る中で、大鼓を打つたり笛を吹いたりして音樂を致します、是も矢張り神に祟るとか云ふ考へからこんな眞似を致すので御座います是れ（圖を示す）は羅馬法王の極く盛りの時代の産

の仕方の圖を書取つたので御座いまして既に五六百年前の事で御座いますが、流石は伊太利杯は早くから開けて居りましたから産床の位置は外の國より遙か上流に居りまして、且立派で御座います、魯西亞の北の方の或國では一のまじないそれは出産の前に、旦那様の腰を抱くとお産が輕いと云ふとを申して居ります、而して之は現然今でも仕て居るそうで御座います、また是れ(同して圖を示す)亞弗利加の黒色人で御座います、併し此圖は普通の産の体裁ではなく余程の難産の有様で御座います、人間を木の枝に釣るし上げて、腹を締め附けるので御座います。

御覧の如く種々様々に産床の位置が國々に依て違つて居りますが重もに縦形……からだを縦にする位置を取つたものと見へます、と云ふは力を出すには、横に居るよりは縦に居る方が力の出様が多いと云ふ所から、詰りお産をする時に、縦の位置を取つたので御座います。

ソコデ日本では、産の際に座りながらするのが慣習で御座います之は如何なる考へかと云ふに、則ち足を延ばすと、血が下ると申します、併しながら今日に於ては、歐米各國に於ては座つて産をすると云う事は致しませんどうか我國でも、座りながらの位置を取る事は無い様に致したい、殊に座て居りまして第一に危險なる事は御承知の通り分娩の際は、多少血液を失ひ、一時脳に貧血を起し、漸々下がつて來て、遂には空血と申す程でなくとも、血の量が平日より余程減じますから忽ち感動して眩暈が致します然るに日本で於ては是と反對で、血が上ると申して居りますか、併しそれは間違つて居ります、血か上るのではなく下がるので御座います、故に若し少しでも頭を上げた爲めに、ふら／＼としましたならば、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

少しの間頭を下げて居りまするど、十分間かゝらぬ中に、氣分が能くなりますから、若し隣近所、下々(そして下々に斯う云ふ事が多う御座いましたから)或は御出入の町人抔にそう云とが御座いましたなら、御教へて御りやなさるか宜しい、其血の上ぼつた所に往つて御覽なさい、其産の位置は、必らすからだを起して座らして居るに違いない、其時は少し頭の下がる位に寢かして御覽なさい十分經たぬ中に癒つてしまいます、血が下つて眩暈がする抔と云う時には、危急の場合で御座いますから、醫師を呼びに往たり何かして居るうちに、若しも腦の働きが無くなつて、死ぬ樣な事が有つては大變で御座いますから差當り前申した所置をするには、豫め平日から御心得なすつて居つて御損は無からうと思ます。ソコデ何うか、産の位置は以來寢て居る樣に致したい、若しも産婆の方から「何ウゾ座つて御出で下さいまし」と云つたら、此産婆は正則の教授を受けたものでは無いから、御斷りになつた方が宜しい、而して産婦は子供を生んで仕舞へば、是れで樂々するだらうと思ひ孰れも安心致します處が勝て兜の緒を締めろ 油斷大敵とは此の處で、まだ／＼危ふない事がある、何かと云ふに後産で御座います、小兒は安々と生れても後産が危ない其譯を申せば、前門虎を防げば後門狼襲ふで、始め子供が生れたると、先づ無事に濟んでも、後の事に氣を附けないで居りましたなら、後産が能く出れば宜しいが、若しも後に少しでも殘りまするど、安心して居る處に、非常なる大出血を起して、産婦が眩暈し、遂に救ふべからさる域に達し、十分間の中に全身の血液が出て仕舞う事が間々御座います、單り後産ばかりでなく、産の仕方に依りましては、血の通ふ管を切つて仕舞う事も御座います、それも極く危き事で御座います

からお產は何邊致しても、其度に產婆は申す迄もなく、醫師を頼んで、產を終へるまで傍らに置く方が安心で御座います、今申す通り、急の場合で御座いますから、其時になつて彼方のお爺さんを呼べ、此方のお婆さんを呼べと云つた所が、手後れになつて仕方が無い、依つて決してお子さん方が立派に生れたからもう、安心だと云ふことはなく、まだゝゝ後產が濟まないと思つて、心に油斷せず、出血の度が強いか弱いかと云ふ事を檢査して、其上で御安心なさらねばならぬ。

それから產を終りました後に醫學的の檢査をしなければならん產後には惡くすると、一ケ月、半月、長くて一年、半年を越ゆる後に忽ち鬼籍に上るとが御座います、御承知の通り、俗間に名けて「ぼうろう」と云ふは產後にあるので御座います、其外座後の病氣の多い事は、案外なる數で御座います、產で命を取られる事は割合に多い（併し歐米人よりは輕いので御座いますが）當時は醫學の事も進んで來ましたから、大概の事は手を盡せば癒るので御座いますから、不幸にして鬼籍に上るとの無い樣に、御注意下されんとを願います、どうか皆樣も充分御考へなすつて、產は自然に出來るものだと云ふ御考は去つて漸々世の中が文明になればなる程、万一先の產は輕く濟んだにせよ、產每に（我田に水を引く樣で御座いますが、醫師を臨監させなければならんと云ふ御考を願います、アイアム國の婦人は產をすると、からだが穢れると申して、火を燃してからだを煤らせると云ふ慣習で御座いますが、こんな事は、實に馬鹿々しい話しで御座いませう、どうも今日は充分心搆へを致しませんで御座いましたから、是で御暇を願います。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

眼鏡の利害に就て

醫學博士　宮下俊吉君　演說

私が御話し仕まするのは「眼鏡の利害に就て」と云ふ題で御座います。眼鏡と云ふものは眼の爲めに利益になるもので有らうか、害になるもので有らうかと云ふ事は毎日尋ねられる處の問題で御座います。併し斯う云ふ漠たる問題は迚も世の中に成立つ事か出來ません、恰度此の問題は溫泉と云ふものは、身体の利益に爲るもので有るか不利益のもので有るかと云ふ、問ひと同樣の問題で有りまする。何故此の問題が成立つ事が出來ぬかと云ふに、御承知の通り溫泉と一と口に云つても其種類は大變にある、先づ伊香保、鹽原、草津、熱海、少し遠い所では有馬の溫泉或は大島の木崎の溫泉で有ると云ふ樣に、大變に類が有りまする、其溫泉の性質を一々調べて見ますると、非常に熱いのも或は暖いのも、鐵を含んで居るのも、鹽を含んで居るのもある、アルカリ性の溫泉もある、一ツとして同樣の溫度で同樣の性分から成立つ溫泉はございません。又人間の體て申しても、肺の惡い人も、或は心臟病に罹つて居る人も、腦病の人も、子宮病の人も、眼病の人も有る、いろ〱病氣の種類が有つて、昔は四百四病と申しましたが、今日では四百や五百どころでは無い。斯の如く病氣の違つて居るにも拘はらず、同じからざる性質の溫泉を以て來て、體の爲め溫泉は善からうか惡るからうかと云ふの問ひは、到底成立つことは出來ない、恐らく世の中に絕對的に好い、絕對的に惡るいと云ふものは無い、例へば玆にシセキマイ藥、或はヒトリニー子酸とか云ふ樣な非常な毒物が有る是れは一方から見まするとは毒物に違ひ有りませんが、併しながら之れを用ゆべき場合に其用量を極正しく用ゐましたならば、始め毒藥と思ふて居つても

遂に非常の妙薬に爲る、又刀、鐵砲とか云ふ樣な刀劍銃砲の類などは人を斬る所の實に危き凶器で平常は入るべき品物でない、併しながら國に大亂が起つたとか、或は外國人が襲ふて來た時、此刀劍銃砲とか云ふ樣なものを利用すれば、前には凶器で有りましたが之れを利用する場合が適當なる時には國を守り家を守るに一日も缺く事の出來ない必要の品物て有ります。是れを以て考へて見ても決して絕對的に好い絕對的に惡るいと云ふことは有りません。毒物學者の申すに激藥には必ず毒物とか云ふ名詞の有るのか素より頭で違つて居る、何故かと云ふに牛肉が好いとか、ソップが好いとか云つても、若し之れを適宜に用ゐなかつたならば、同じく毒になる。故に是れが毒で是れが毒て無いと云ふ樣に區別することは出來ない、併し只我々が毒物とするは極少し許の量で生命を落すものを云ふのみで、眞に世の中に絕對的に好いとか惡るいとか云ふものは無いと毒物學者は明言して居る。我々の眼鏡も此の原則に洩れない、矢張り或場合には好いが或場合には惡るいと云はなければなりません。

眼鏡の始まりは何時の頃かと云ふことを調べて見ましたが判然した時代が分りませんが、或る書物の記載に依ると、ネローと云ふ帝王が、スマラットと云ふ寶石を以て眼鏡を拵へた、此人は遠視眼か近眼か、乃至又外に病氣が有つてか分りませぬか、兎に角寶石で眼鏡を拵へました、ソレから以後に伊太利でも佛蘭西でも拵へた。併し眼鏡が一般世の中に流行する樣になつたのは、硝子製造が洽く行渡てから後に違ひなからうと思ふ。私は但馬の産で有りまして、二十年許り前に但馬に居つた、子供の時のことを考へて見ると、眼鏡と云ふものは先づ年老つた人の專有物の樣になつて居つて、非常な老爺さん老婆さん

の道具の様にあつて居る炬燵、眼鏡、猫は殆んど老人の附きもの、様に記憶して居る、其時分に（但馬に居つた頃）は中年の人、若い人の眼鏡を掛けて居るのを見たことがありませぬ。日本で何時の頃より眼鏡を用ゐ出したかと云ふことを調へて見ましたか、判然した事は分りませぬ。併しリードルの眼鏡を掛ると云ふ事か或る書物に出て居る、リードル眼鏡と云ふは、新入物であると思ふのは、リードルと云ふのはウビードル……………即ちカラスと云ふ意味か有る、ウビーと云ふ假字かありませぬから、リードル、或はリードルの事をギヤマンと云ふ様に假字を違へた丈けのことで、兎も角も日本の世の中に廣く行はれたのは、十年以來、現在の事と云はなければならぬ。獨逸のシユシケンと云ふ學者か一千八百七十年（今から二十年許り前）に目の養生法と云ふ書物を著はして、其中に次の記載かあります。

獨逸で當時（一千八百七十年を當時とするのですから二十年前）今日から四十年前（今日から云へば六十年）フロシセの兵隊の一聯隊の中に眼鏡を掛けて居るものは一人であつた、今日では何の隊を見ても一隊の中に二十人や三十人眼鏡を掛けて居らぬものは無い、又市中を歩いて見ても、殆んど道を歩いて居る人の半分は眼鏡を掛けて居る、僅か四十年の間に眼鏡は非常に勢力を得て擴がツて來た、若し此勢を推して往ツたあれば、道を歩く人を見ても眼鏡を掛けて居らぬ人を見るは稀れにあるで有らう

と云ッた願ふにシユシケンか申して居る通り、獨逸でも六十年前は、眼鏡は稀れであツたことゝ考へる。今私か二十年前にシユシケンの申したことを悉皆借りて參ツた日本でも今の勢ひで段々眼鏡か流行して參ツたあらば、私か老爺さんになツて杖をつく時

分には「眼鏡を掛けて歩るかないものはない様になるであらう」と私は豫言して置く貴婦人方か、お邸にお歸りになる道を氣を附けて御覽なさい、眼鏡を掛けて居るものが澤山にある。又何處の町に往ッても眼鏡屋の無い所は御座いません、實に今日の眼鏡の用ゐ方は濫用と申すより外ない。

此濫用はどう云ふ所に原因したらうかと調へて見れは、是れはどうしても西洋熱に浮かされて遂に斯くの如く濫用するのであると云はなければならぬ。(但し濫用して居るお方に向ッて斯く申すので、必要か有ッてお掛けの御方は例外でありますから惡るくお聞きにならぬ樣に願ひます) 西洋熱にもせよ眼鏡の流行しました。嘉永六年にペルリが、浦賀に來て通商の貿易を行ふて、日本と亞米利加と締盟國となりました、始めは赤髯青眼玉などゝ云ふて擯斥して居ッたものか近年は非常に西洋人を尊崇する傾きか見へる、ドウも日本には美術と云ふものはないやうに思ッて居たが、西洋人は日本の藝を賞める、ドの西洋人か斯う云ふたから好い、女の方は洋服を着けなければいかぬ、髮は束髮にしなければ善かぬ、舞踏か出來なければ善かぬと、西洋人か云ッた。ソレでは私も洋服を着ましせうとか束髮にするとか云ふ事が一ッの流行になりましたが、幸にして(私は幸にしてと申します、近頃追々優美なる風に還ッて來て、また日本にも近眼の人許りで無いと云ふことを見て誠に喜ばしく思ひます、男子の方にも此風かある、上流の人で紳士學者とか云はれる樣な人の形容をして見ると、天を衝く樣な丈で髯を生やし、眼鏡を掛け突杖を持ッてシガレット或はシガレーを吸ひながらブラ々々して居るのが上流の人の服裝で有る。上の好む所は下の者か眞似、今までは僅かいつ斤八錢位の煙草を吸ッて居ッたのが、カメヲとかビ

ンヘットとかを吸ふ樣になる「ドウも某博士は眼鏡を掛けて居るわたしも博士ではないか眼鏡を掛けて杖を突きませうと」、大學生之れを遣れば中學校の靑書生か眞似をする、果ては小僧も番頭も馭者も車夫もと云ふ樣に、知らず識らず今日の眼鏡の流行を來したものである。上の好む所下か眞似をすると云ふ例は、幾等もあります。近來花合とか云ふ樣なものは、金を賭けなければ法律は禁じない、然るにドウ云ふ間違ひであるか、上流社會の人か頻りに或る一種の場所に於て是れを遣る、漸々今日は流行して來る、紳士の交際には花合せトランプとか云ふものか出來なければ、交際か出來ない樣になつて居る。矢張り是れも上の好む所下か見倣ふと少しも違はん。

抑々眼鏡はどう云ふ性質のものであるかと云ふに、恰度眼鏡の目に於ける關係は二本杖の「ヨイ〳〵」に於ける關係と同じである「ヨイ〳〵」が步るかうと思ふと、步るけぬから二本杖を突いて、ヤツとブラリ〳〵して居る、若しも足の達者の人に御歲暮年玉に二本杖を出したならば、其人は怒つて之を投付る、又眼鏡はドウ云ふものだと云ふに、眼の中の惡るい所を補ふための用をなすものである、然るに健康なる眼を持つて居る人が、眼鏡を掛けても、人も見にくいとしない、自分も醜いとしない、誠に奇怪千萬のことゝ申さなければなりませぬ。今日用ゐて居る人は眞に眼鏡の要用の人も幾らもありませうか、多勢の人の中には要用と看做すことが出來ぬと斷言すへきものか多々あります。

眼鏡の種類を大きく分ければ、二色、一ツは着色眼鏡一ツは無色眼鏡、即ち透明つた眼鏡、着色眼鏡の方に三ツの種類かある、第一は綠色第二は靑色第三を煤色と云ふ、其色の中に濃い淡いはありますか、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其元は三種である、此三種の眼鏡を始めて拵へた手順を御話し致しませう。

何處の國の大都會でも百万人以上の人の居る所は道か狹い、其上に馬車人力車か絡繹して居る。實に市中は塵たまりの樣でコンな中を歩いて居ると、決して人間は爽快の心地はあるものでない。そこで日曜日或は大祭日の一日か半日、閑を得て野外に散歩を爲すつて御覽なさい、王子とか池上とか、氣の清々とした所に往ッて野外の有樣を眺めると、實にコンな愉快な事はありませぬ。併しなから、市中の者はさう毎日青葉を見ることは出來ぬ、青いものを見ることか出來ぬから、綠色眼鏡を用ゐましたか暫くすると往けない、何故かと云ふに元と青と黄とか合体したものか綠色ゆゑ、日光の強いので分色して青黄となる。日光の烈しい時に青葉を見て居ると、葉の綠か黄色くなるソレと同じで、綠色の眼鏡を永く掛けて居ると綠にずつと黄色い綠を取つた樣に見へ、是れではならんと云ふ樣になつて、綠色眼鏡は廢たつて仕舞つた。(日本には賣れ殘りが大變ある が、歐羅巴などには少しもありませぬ)。

第二は青色眼鏡、ソレはドウも空が曇つて雨が降る樣な日和よりは、一天雲なく誠に晴れ渡つた日はなんとなく心地か好い、けれども一年三百六十五日の間晴天の日許りはない、故に曇天でも雨天でも同じく晴天の日の樣にしたいと云ふ考へから、青色眼鏡を拵へた、併し是れは赤と黄色と二つの色から成り立つたので矢張り是れも最初は余り光線の強い時には青の眼鏡を掛けるか宜しいと云ふ考へから遣つたか、光線に違つて分色されて仕舞うから、永く掛けて居ることは出來ない、刺激を少くする作用は無くして却つて刺激を増す　加之東京邊はサウでもありませぬか、雪の多い國で、青い眼鏡を掛けた所か何

の効も無い。又畫を描く人が見ると、物の色が違ふ、眼鏡を掛けて見ると眞物の通りに往かない。詰り刺激を少くする事はない。故に一時は眼科病院でも青い眼鏡を用ゐたが長く使用することが出來ませぬ、遂に青色眼鏡も暇乞をしたかしないか無くなつて仕舞ッた。

第三は煤色眼鏡、スモーグラスと申します。始めエソナの拵へたものは質が悪くて役に立たない、ベーリエユートと云ふ様なもので、若しも光線の強過ぎる刺激を避け様と思ふには、煤色眼鏡の一品あるのみ、何れも有害無効のものであります。

第二の種類即ち無色眼鏡は其種類が二ッ、平面鏡、中面鏡、中面とは眼鏡の中が高く或は凹んで居る。平面鏡は、ドウ云ふ場合に用ゐるかと云ふに、日本でも大變流行して居る、酷く風の吹く時に沙を除ける爲めに用ゐる眼鏡で此眼鏡は別段に害は有りませぬ。

第二の種類、凸鏡凹鏡は一日も缺くべからさる、必要なるものである、此凸鏡と云ふ方は、ドウ云ふ作用をなすかと云ふに、是れは極く遠方から參る光線を集める作用を以て居る。凹鏡の方は光線を散らせる作用を持ッて居る。凸鏡の方はドウ云ふ場合に用ゐるかと云ふに、老人が新聞紙を當り前の處で見やうと思ッても見へませぬ、遠くに持ッて往くと目の爲めには見好くなる、ケレども細い字の新聞なぞを見やうと思ッても見へない、ソレを老視眼と云ふて、四十後以上になると、サウ云ふ有様になる、ソウ云ふ人が凸鏡を掛けましたならば、判然と見ることが出來る、又ソレ故老人であるとか遠視眼の人には一日も缺くべからざるもの。又凹鏡は近眼の人には一日缺くことの出來ないものである、一ッは近眼を治し一ッは遠視眼を治す、併しながら世の中の人

は皆醫者で無いからして、自分は遠視であるか近視であるか、老視眼であるかと云ふことは素人に鑑定の附くものではない。然るに何方も大抵眼鏡を掛けるのに醫師の處方箋に因ッて掛ける方はない、皆自身眼鏡屋に往ッて自身撰びに買ふて來る。眼鏡の弊害に就てコオンと云ふ人が調べたのに、百七人の學校生徒を調べて見た處が、其中醫師の處方箋を持ッて來たのは、八人其中で合ッて居ッたものが僅二人しかない、後の九十九人と云ふものは少しも目に合ッて居らぬ、近視の人でも近視の度に合ッて居らぬ、遠視の人でも遠視の度に合ッて居らぬ、此の通り大變に度の違ッた眼鏡を掛けて居ッたと云ふことをコオンが云ふて居る、恰も是れと同じ經驗は我々も毎日して居る。眼鏡を掛けて居るのを調べて見ると眼に合ふのを掛けて居るものは百人の中一人居ッたら結構、如何に見へるから宜しいと云ッて居ッても斯う云ふ合はぬ眼鏡は、ドレ程の害があるかと云ふに、嘗て私が外國學校に居る時分に親密に交際ッて居ッた一友人が、或る西洋人の教師が眼鏡を掛けて居るのを見て、フイと掛けたくなり、或る所で眼鏡を買ッて來て掛けました、私も一日借りて掛けて見たがどうも、眼がグラ〳〵して頭が痛み始めたから一日で廢しましたが、買つて來た男は勇氣の强い男で頭痛位には驚かないで掛けて居りました。それからして半年許り經ッて或は眼科醫に見て貰つた所が、正札附の近視になつた、始めは近眼の人では無い、已れも掛け樣と思つた丈でソレを掛けた爲めに近視になつた。或は元來近眼の性の方が自分の近視の度より强い眼鏡を掛けて、近視の度をそれがため强くすることが往々あります、故に斯くの如く不適當なる目に合はない眼鏡は、恰かも毒藥と同じ位の害を及ぼす。又激毒のモルヒネ、ストリヒネーと云ふも

のは薬店に在つても、醫師の處方箋がなければ、素人には賣らない、少許りの量でも飲むと死んで仕舞うから賣らないけれども、目に合はぬ眼鏡は可惜好い目を惡くして仕舞ふ、害の上から云へば眼鏡も毒薬と違ふことはない。然るに、政府は眼鏡に、制限を立てゝ置かぬ。或時或る先生に此の事を論じた所が、其先生は私に反對で其先生の云ふに西洋でも矢張り眼鏡屋の勝手次第に賣つて居る、醫師の處方箋がなければ賣らぬなどゝ云ふことはないと、此先生は云ふた。それから私は大いに冷評して遣つた「成程西洋には、さう云ふ規則はないであらふ、何故かと云ふに西洋の人は遺憾ながら自分の人体を大切にして居る、人に教へられぬでも、必ず醫師に見て貰つて醫師が何度眼鏡をお掛けなさいと云ふ通りにすそ、それ故賣る方は構はないけれども、買ふ方で間違つたことはしないから、眼鏡屋に制限を立てる必要はない、又眼鏡屋もヲクチックスと云ふことを充分知つて居る、然るに日本の眼鏡屋は一、二の人は知らず、大概は凸鏡がドウ云ふ働きをなし、凹鏡がドウ云ふ働きを爲すかも知らない、然るに一方には制限を立てない、一方の眼鏡を用ゐる人は其關係を知らない、其結果はどうなるかと云ふに、ムザ〳〵良い眼を潰して仕舞ふのは澤山あると申しました。ソレ故私が切に貴婦人方に望むのは、何卒今少し眼を大切にして戴きたい、又眼鏡の必要の有つた時は一旦醫師に診斷して貰つて御需めになる樣に致したい。

次に眼鏡の形の種類に就て申しまするど、形に三ッあります、即ちペンスチー、ロウレット（英語にブルウン）、次はスペクステークス。ペンスチーは鼻に挾むので鼻の低い……挾む場所が無くては掛けられぬ、先づ日本にペンスチーの掛けるお方は少ない。

ロウレットと云ふのは、西洋に大變流行して居る、ソレは始終掛けて居るのでなく、貴婦人方が、夜會などに於て何の誰々と紹介されると、「ハヽア」と云つて一々眼鏡を匿袋から出して當て見る、ソンなドウも失敬千万の事はありませぬ、其眼鏡も余り必要はない、極々要用で役に立つのは、スペクステークス、此眼鏡は環と眞中の玉から成立つて居る、其環と玉とに就て注意を一寸お話し致しませう。

此間或る衆議院議員は召集に應じて東京に來た時に私の處に來て、眼の診察をして眼鏡の番号を書いて渡した處が、翌朝大層立派な光々する眼鏡を或る眼鏡屋が持つて來たのを見ると、スッカリ純金で實に立派なものです、ソコで私は議員先生に向ッて此ピカ／＼光る環は宜しくありませぬ、コンな物よりは眼の爲めに宜しいのは鋼、水牛、鐵抔で拵へた方か少しも光線を反射しないで宜しい、金の環などは非常に光線を激しく反射して往けませぬ、故に若し貴君が金満家と云ふことを誇らうと思ふならば、東京には養育院があり慈恵醫院がありて金銀を要する所が澤山あるから、其邊に献金したら宜いて有らうと云ふことを忠告して遣りました、貴婦人方も眼鏡をお拵へになる時は金の環でなさらん樣に願ひます。

次に眼鏡の玉はドウ云ふ質の物が宜しいかと云ふに、極く固い密なる物が宜しい、下等物の五錢か三錢で夜店で買ッたものは、質が粗悪で決して光線が正しく受けられない、故に極く濃厚で緻密で質の固い眼鏡が宜しい。ソレには第一に金剛石が宜しい、併し金剛石は、日本人の生活の度に過ぎ、蟻の卵程のダイヤモンドか幾百万と云ふので議員の金の環どころでは無いが、水晶は容易に傷が附かなくッて、極く宜しい、水晶の眼鏡を買ふことの出來ない人は

矢張り普通のガラスで拵らへた眼鏡が宜しい、出來合の物は往けませぬ、何故と云ふに眼鏡の其中に中心が在る、此二ッの中心か目の中心と適合して居らぬでは、目に害かある、然して人間の顔形は素より目と目との間の狹い人もあり、廣い人も有る、是れか宜く合ッて居らなければはならぬ。

先づ眼鏡の注意は是れ位のことて御坐いますか、是れ丈けお話したら既に眼鏡の善いことと惡るいことは別段申上げないてもお解りになつたらうと思ひます。世の中に絶對的に好いと云ふものも絶對的に惡るいと云ふものも有りませぬ、眼鏡も其原則に洩れないで、近視、老視、遠視の人等が有る、其他是れを必要とする人に向つては、此上なき賜ものと云はなければなりませぬ。

●耳病者の心得

醫學士　賀古鶴所君

凡そ人身の病いの多きか中に邦人に輕せられてこれがために毒を流すこと甚しきものは耳病を以て最となす近年インフルエンザ麻疹又は咽頭病に罹りて病の耳に及びたる人自らこれを曉らすいたづらに腦病ならんなと臆測してそのまゝに打過ぎ遂に耳聾の錮疾をさへ得しことあり豈慨すべきことならずや原來耳を患ふる者は世間に甚だ多くして其數眼病者の上にいづと雖其病めるや眼病とは異なりて一耳に止る間は中には自ら病めるを知らずして病勢漸く進みて聽ゐずなるか若は兩耳を併せて病むに至りて初めてこれを知るものありさるからに初めて來れる病者にて其發病の期は遠く數年前にありしを見ること少からず然れどもこは獨り病人のみ懈にあらす耳科は歐州にては早くより開けて大學には專科の教授あり世間にはことにあれたる專門の醫ありて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

これを研究して止ます從て彼の地の人々は耳の養生にも通じたりと雖わか邦にては然らす大學には未だ專科の教授を置かす世間にはことになれたる專門の醫に乏し世人のこれを知らざるも亦むべならすや

さて耳病の性はいかにといふに甚だ懼るべきものにて眼の見ゑずなるが如く聽ゑずなるに止らずして耳の位置の深く腦底に潜みたるを耳と腦との間に自ら通路ありてこれより病を腦に傳へ俄に劇病を起して遂に不幸に陷いらしむる事あればなり

先づ耳の構造をいはんに耳翼外聽道間耳内耳の四部に分れたり外に出でたるきくらげ形の部を耳翼といひ耳孔より奥の方皷膜と稱する障子までの所を外聽道といひて耳翼のとりて傳ふる音響をばよく調へて皷膜に傳ふ皷膜のあなたには小さき室ありこれを間耳といふ間耳は外の方は皷膜にて閉ぢ内の方は內耳の前壁にて限り上方には薄き骨ありて腦との隔をなし底には小孔ありて細管に連なり咽頭の上の隅に通ず間耳には小骨三つありて皷膜に受けたる音響を內耳に傳ふ內耳とは間耳に連りて何は奥の方に在り蝸牛の殼の如き形したる骨と曲玉の如き形したる骨と膜とより成りて其中に水を湛へこれに聽神經の末のふさの樣に成りたるが浮びて間耳の小骨の傳へこせし音響を識るなり耳の形体は概ね斯の如し而してこれを成せるものを何ぞといふに略他の部を成せるものに殊ならず外皮、粘膜、軟骨、骨、骨膜、血管、神經等なるのみ故に耳に發する病は此等のものに生ずべき總ての病にして其由來を尋ぬれは耳病なりとて特に殊りたるものにあらす耳を病めるもの　多き所以は獨りこゝに發する病に止らすして鼻咽頭の病をも耳に傳ふることあればなりインフルエンザを病みたる鼻咽頭をいためたる又麻疹熱病にかゝりたるも

の、耳を煩ふはこれか爲なるのみ又耳病の種類の多きは從來耳漏といひて一つの耳病の如くいひなしたるものすら本來只一の病徵たるに過ぎずしてこれを致すべき病は十數類あるを以ても知るへきなり

何病に限らず初めに相當の處置を缺かば病は久しきに涉りて遂には治療の甲斐なきに至らん耳病に於て殊に然りとなす且つ耳病を癒さんとせば醫も病人も共に銘肝すへき一事ありそは耐忍の一事なるのみもし病の久しきに厭きて治療を怠らは決していゆる期なかるへし耳の療法はこれを要するに消毒法を旨とせる外科的手術にして療治に用ゐる水わたの末に至るまて悉く藥入りの品にあらさるはなし然るにかむせんよりにて膿をとり動もすれは石鹼水などにて耳を洗ひ油をさすを習ひとすれとも誠に危險なることなり試に見よ石鹼水眼に入らば其痛耐へ難くして眼は忽ちに赤くなるべし耳にしてもし鼓膜の破れたるに石鹼水等を注ぎ入るゝことあらんか自らいゆべき病も爲に劇症に變じて或は不幸に陷いることなきにあらずまた耳の中にもの出來て腫れ痛み夜も眠られぬことなど出でくべし故に耳を洗はんとせば硼酸といふ藥を溫水に溶けるだけとかしたるを用ゐ膿を拭ひ去るには消毒したる綿を用ゐるを可とす

耳病者の心得おくべき事は數多し先づ酒類煙草を用ゐず劇場等に遊び若くは夜をこめて業を執るなど總て逆上すべきことを爲さず劇動を避け海水浴場溫泉場に遊ぶはよけれども河海に浴し瀧にあたり日に數度溫泉に浴すをはいづれも惡し天氣惡しき折寒甚しき折風強き折は外出すべからず止を得ざる時は硼酸綿を耳にはさみていづべし浴せし水髮を洗ひし水の耳に入らぬやう注意すべし斬髮店にて耳の毛を剃らせ耳に棒を入れさせるなどすべからず小兒の耳に濕疹といふ小水泡の夥しく發することあり速に

醫治を加へざれば漸く耳中に襲ひ入りて重き耳病を醸すことあるべし齒痛を止むといふ賣藥にて耳中に注ぎ入るゝものあり決して用ゐるべからず耳病を患ふる者は概ね瘰癧質とて体質弱きものなり斯る人は常に牛乳肝油の類を用ゐて身体を強くせざれば耳病は容易にいえぬなり又平手にて耳を打たば皷膜破れて大に内部を傷くることあり注意すべし鼻咽頭を病める者は繼て耳病を發することあらんを　慮ざる可らず耳病既にいえたるものにて聽えの尙あしきには恰め眼病者に眼鏡を用ゐるが如く補聽管といひて聽を助くる器あり又義眼などの如く皷膜の闕けたる所に人工皷膜といふものを嵌むることありいづれも時宜によりて著き効驗ありと知るべし（終）

◉啞生の耳

醫學士賀古鶴所氏が曾て東京盲啞學校の啞生に就て聽器の撿査を行ひしその成績のあらましを聞き得たれば左に記す

學校の調べに依るに啞生の現員は四十七人ありて其内四十四人の病因をたづぬるに生人啞なりしもの二十一人驚風にて啞せしもの十人腦病三人頭を打ちしもの三人脾疳一人熱病一人百日咳一人因由不詳なるもの四人あり年齡を以て分てば生來啞なりしもの二十一人一歲にして啞せしもの四人二歲にして啞せしもの十人三歲一人四歲一人五歲二人八歲一人不詳なるもの四人あり

啞生の父母を撿せしものありこれによれば生來啞なるものゝ中九人の父母はいづれも重緣のものにていとこぞひ若くはまたいとこぞひなり重緣なるものゝ兒兄弟共に啞なるあり驚風にて啞せしもの四人の中二人の父母はいとこぞひにて二人は其父大酒家なり啞となりし因由不詳なるもの四人中一人の父母はいとこぞひにて二人の父は大酒家なりしといふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

啞生四十七人中發聲讀書を學び得て書を見ずして短話をなし得るもの一人語をなし得るもの二人五十音を悉く發し得るもの六人五十音中音調低きものをのみ發し得若くは母音をのみ發し得るもの合して二十八人敎ふれども聲を發し得ざるもの十人あり

賀古氏は先づ啞生の過半數に就て聽官の畸形やあると種々の器械を用ゐて撿せしが頭骨と顏骨との權衡などに例の聾啞人の特質こそ見えたれ聽器には絕えて畸形なかりき扨て聽機は奈何と撿するに能く響に應ずるものあり之に應ずること能はざるものあり又聲音を辨ずるものありされど語を聞き取るものあらず

學校には發聲の稽古あれど今まで探聽の練習なし若し補聽管の力を借りてこの門戸をも開くことを得ば敎育の功舊に倍することもやと思ふよしありて嘗試に補聽器にて細撿せしに第一五十音を剩さず感得るもの三人第二低き音調又は母音のみを感得るもの七人第三僅に響を感得るもの三十一人第四響だに感得ざるもの六人を獲つ

然るに此結果は發聲の能不能と一々相呼應し五十音を剩さず感得るもの三人の內二人は能く短き話をなすものにて其一人も能く聲を發するものなり絕て響を感ぜざるものは即ち是れ絕て聲を發せざる者なり

賀古氏は此成績を得て以爲へらく啞生の中聽機頗る完全にして補聽管の力を借りては能く五十音を辨ずるものを敎へむには今までの發聲の科に加ふるに探聽の科を以てし其便をなさんために補聽管を學校に備ふるに若かず此事行はれば啞生の敎育上或は一大進步を見るに至らむといへりとぞ

聞く所によれば同校にては爾來正科の傍探聽のことを敎へしに啞生にして單話を解するに至りしもの數人を出せりといふ、

衛生叢談

●種痘に關する注意

目下天然痘の流行に際し之が豫防に當局者の意を注かるゝことは吾人の屢々記する處なるが今度大日本私立衛生會新潟支會にては種痘を奬勵するため左の如き種痘の効力及種痘中注意すべき件々を印刷して汎く世人に配布せりと云ふ

●種痘の効力及種痘中の注意

一種痘は一定の年月内天然痘を免れしむるは確實なる効力あるものとす

一種痘せし者時として天然痘に感ずる者あるは其痘の不感善か若くは効力年限を經たるによる

一種痘せし者にして萬一天然痘に感ずる者あるも其病勢最も輕くして痘痕を遺す者又は死に至る者は極めて稀なり

一種痘は善感後といへども五年を經れば其効力を失ふ者あり

一天然痘流行の兆あるときは未痘者はもとより再三種後五年以上を經たる者は臨時に種痘をなすべし

一種痘は天然痘流行の際に行ふも決して天然痘を誘發することなし其の併發するものは受痘者既に天然痘に感染し其潛伏期に接種せしによる

一種痘後に顏手足を洗ひ又は腰湯するも妨なしと雖も感冒せざる樣注意すべし但種痘点に湯を付くべからす

一種痘疱を摩擦或は搔き破り又は痂を剝ざる樣心を付くべし

一熱強く發するか他の病を發することあらば直ちに醫師の診察を請ふべし

●傳染病研究所の建築

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

傳染病研究所は彌々四月一日より建築に着手するよしにて地所は愛宕町二町目十三番地（内務省所轄地にトし解剖室、蒸氣消毒室、動物小屋、氷室、患者室、治療室、事務室等を設け患者室等を設け患者室は五十人内外を容るゝ見積なりといふ

◉コッホ液の注入

北里醫學博士は昨冬芝公園内に傳染病研究所設置以來毎日患者の診察をなせしがコッホ液注入治療は當時製造中ゆゑ未だ實施せざりしが去る二月上旬彌々製造出來したるに付同月十日より廿五人の結核患者に該液注入の治療を實施し其後毎日叮嚀に療治中のよし何れも結果良好の方なりといふ

◉大日本私立衛生會常會

去廿五日（土曜日）午後一時より木挽町厚生館に於て同會月次常會を開きしが其演説者には石黒忠悳君（衛生の實證は統計に據らざるべからす）醫學博士中濱東一郎君には（ペッテンコーフエル氏の虎列剌菌服用試驗に就て）の演説ありしといふ

◉妊娠と題する前々號の續

月經の停止することは必しも妊娠を證するものでありません或は妊娠中繼いて月經あるものもあり又は他の原因よりして停止することもあり人によりましては（早晨疾患）といふて嘔き氣を催すことにて早晨之を發するものもあります併し又時々發するものも或は絶へず嘔吐するものもありて此症は第一月の末に始まり六周間乃至八周間に亘るものであります然れども又全く之を患へざるものがありますが是れは胃と子宮と密に相關係して生ずる一症であります夫れから御産の時に最も注意を要すべきことは産褥熱即ち血の道に罹ることでこれは清潔にさへすれば恐るゝことはありませんが併し是迄日本流の御産

は自然襤褸のようなものを用ゐますことから遂には不潔に流れ安く此症を患うるもので危險ある事であります夫から又姙娠して半產を致すことは白帶下梅毒等を患へたり其他不意外來の事件例へば顚墜して身体を打つたり或は劇しき喜びや劇しき怒や深き憂劇しき痛み所あるとか衰弱とか勞働の度に過るとか其他興奮劑の過用等は皆半產の偶發する原因となるもので此時には早く醫師の診斷を受けぬと母子共に不幸に陷るものであります。（此外產の話に付ては朝山氏の懇切なる演說を一讀して知らるへし）

◉流行性感冒

近頃府下に流行性感冒流行し輕症なるも之に感染するもの、日に增々甚だしく赤坂兵營の兵隊の如きは日に三拾人餘の患者を出せりといふ

◉醫學士賀古鶴所ドクトル佐伯理一郎兩氏（いろは順）は以後當雜誌へ原稿寄送せらるゝとの事なり、

◉大日本婦人衛生會總會

◎去月十一日第二土曜日午後一時より麹町區富士見町五丁目富士見俱樂部に於て第六次總集會を開きたり總裁　小松若宮御息所殿下にも御臨場被爲在醫學士三島通良君には（種痘に就て）天然痘の恐るべきことより種痘時の注意を促し醫學博士佐々木政吉君には（病門の衛生）と云へる演題にて鼻管及味管は共に病の入り安き門の如しと傳染病の傳染する理由より飲食物の不注意により腸胃を害する事等に說き及ぼし寄生蟲の實物を示し演說せられ終つて役員の改撰を行ひ會員に茶菓を饗し午後五時散會せしが當日出席の會員大凡四拾名なりき、

役員改撰の結果多數を以て左の諸氏當撰せり

會長　土方龜子
副會長　濱尾作子

其他幹事には西、村岡、加藤、馬渡、中野、中村、北澤の諸氏當撰し評議員には高木、佐々木、大澤、山縣、三宅、加藤、西、長與、中濱、原田、宮本、萩原、河本、榊、河津、岡田、濱田、平田、南部、櫻村の諸氏當撰せしが未だ承諾を經ざる方々あるを以て詳細は次號に揭載すべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉去月十一日婦人衛生會總會に於て報告したる會計報告(自明治廿五年九月 至仝年二月)は左の如し

収入之部

一金貳百五拾四圓　會費集高
一金六拾七圓九拾壹錢四厘　懇親會々費
一金七圓　懇親會寄附
一金貳拾圓　三井銀行戻金
合計金三百四拾八圓九拾壹錢四厘

支出之部

一金拾壹圓參拾九錢五厘　前年度不足高
一金五拾五圓八拾壹錢壹厘　雜誌印刷費
一金貳拾貳圓四拾參錢參厘　諸印刷費
一金拾四圓　速記料
一金四圓貳拾錢　會場費
一金參拾壹圓拾貳錢五厘　郵便劵
一金四圓貳拾壹錢　通知端書
一金五圓六拾七錢九厘　筆墨費
一金拾壹圓六拾八錢六厘　器具費
一金參拾圓　事務給料
一金拾圓　保育園補助金
一金拾貳圓六拾七錢九厘　雜費及饗應費
一金七拾圓九拾六錢五厘　懇親會入費
一金四拾六圓　三井銀行預金
合計三百三拾圓拾八錢三厘
收支差引殘額拾八圓七拾三錢壹厘
一金百拾九圓四拾九錢三厘　三井銀行預金總額
一金壹圓九拾錢貳厘　同利金
合計金百貳拾壹圓三拾九錢五厘

◉婦人衛生會に於ける三月中の入會者は左の如し

◉堀すみ子の紹介により

本郷第一醫院　中村きく子

●堀越たか子の紹介により

日本赤十字社病院　山田ひさ子

同所　保田とめ子

●中野悦子の紹介により

京橋柳町四番地　通常會員　瀧川淺子

仝三十間堀三丁目十六番地　通常會員　高山らく子

牛込北町三番地　仝　山村とし子

●山田のぶ子の紹介により

麴町上二番町卅八番地　通常會員　山本多穗子

●森その子の紹介により

小石川跡見女學校內　通常會員　鷲田羽江子

轉居

芝三田小山町綱町十番地へ　仁禮すが子

麻布今井町卅九番地へ　岩橋とき子

湯島天神町三丁目十二番地へ　中田はる子

麴町五番町十番地へ　福田いね子

神田猿樂町十二番地へ　高橋清子

日本橋久松町三十番地へ　宮田けい子

根岸金杉村百六十一番地へ　松野兼子

神田仲猿樂町十七番地へ　高橋清子

退會

山口いね子　岩崎つね子

杉いそ子　谷山てつ子

正誤

通常會員と掲載したる福島龍子は**特別會員**の誤りに付茲に正誤す

◎各地傳染病景況

東京府　三月十七日腸窒扶私患者は神田區女一人、日本橋區女一人、芝區男一人、小石川區女一人、本所區男二人、深川區男一人、荏原郡女一人、計八人「實布的里亞患者は芝區男女各々一人、麻布區女一人、計三人」合計十一人なり（警視廳）

京都府　京都市下京區男二人、紀伊郡に女一人、天然痘に罹りたる旨本月十四日屆出でたり（京都府）

大阪府　三月六日より同十二日に至る一週間屆出の天然痘患者は大阪市西區四十三人、南區二十七人、東區二十三人、北區二十三人、西成郡七十七人、東成郡十九人、住吉郡三人、大鳥郡四人、泉郡六人、日根郡錦部郡各々二人、丹北郡五人、若江郡澁川郡各々三人、豊島郡堺市丹南郡古市郡茨田郡讃良郡各々一人、計二百四十六人内死亡八十二人なり（大阪府）

神奈川縣　三浦郡浦賀町に於て三月十五日男一人、西多摩郡福生村に男一人孰も天然痘に罹りたる旨屆出でたり（神奈川縣）

兵庫縣　天然痘新患者は前報告後屆出神戸市男二人女五人、武庫郡西宮町男三人、養父郡關宮村、七美郡兎塚村各々二人、菟原郡本庄村、魚崎村行旅者、川邊郡稻野村、明石郡明石町、加東郡米田村、河合村、津名郡鳥飼村各々男一人、三原郡福良町女一人、沼島村男一人女六人なり（兵庫縣）

奈良縣　三月十五日屆出の天然患者は平群郡龍田町に男二人、同郡三郷村に男一人女五人、添上郡治道村に女一人、添下郡郡山町に男二人女一人、高市郡今井町に男一人、葛下郡王寺村、當麻村に女各々一人、同郡五位堂村に男一人、同郡二上村に男二人女一人、忍海郡忍海村、吉野郡下市町に男各々一人、計二十一人内男一人死亡」同十六日同添上郡奈良町、添下郡郡山町に男各々一人、高市郡眞菅村に女四人、計六人又舊患者の内女二人死亡せり（奈良縣）

山梨縣　天然痘患者は前報告後南都留郡明見村に於て男四人女二人同郡福地村舊患者女二人死亡せり（山梨縣）

秋田縣　三月五日より同十一日まで天然痘患者は南秋田郡一人、山本郡死亡一人、雄勝郡七人、死亡七人計八人、新患者死亡八人あり（秋田縣）

高知縣　長岡郡天坪村に於て三月六日男二人同九日男一人天然痘に罹れり（高知縣）

奈良縣　三月十七日屆出の天然痘新患者は添下郡都跡村に男一人、平群郡三郷村に男一人、同郡龍田町に女一人、廣瀬郡瀬南村に男一人、葛下郡當麻村に男女各々一人、同郡王寺村に男一人女二人、同郡新庄村同郡磐園村に男各々一人、同郡五位堂村に男女各々一人、同郡下田村に女二人、計十五人又舊患者の内女二人死亡」同十八日同山邊郡二階堂村に男一人、平群郡三郷村に女一人、宇陀郡神戸村に男一人計三人及舊患者の内女一人死亡せり（奈良縣）

山梨縣　天然痘患者は前報告後南都留郡明見村に男六人女五人同郡桂村に男一人なり（山梨縣）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

長野縣　三月十日より十六日に至る一週間内屆出の天然痘新患者は北佐久郡に男三人、小縣郡に男二人、女六人、諏訪郡に男二人、上伊那郡に男一人、東筑摩郡に男四人、南安曇郡北安曇郡に各々男一人、更級郡に男二人、女一人、埴科郡に男二人、上水内郡に女一人、又舊患者の内死亡せし者小縣郡東筑摩郡更級郡に各々男一人なり（長野縣）

廣島縣　三月十、十一の兩日屆出の天然痘患者は安藝郡渡子島村に男二人、女一人、佐伯郡大野村に男二人、女四人、同郡鹿川村に男一人、豊田郡大崎南村に男一人、同郡御手洗町に男三人、女四人、同佐江崎村に男一人、御調郡貢村に男一人、女二人、同郡三原町に女一人、同郡向島東村に女一人、沼隈郡本郷村に女一人、安那郡川北村に男一人、女二人、同郡中條村に男一人、同十三、十四の兩日同廣島市江波村に女二人、安藝郡吉浦村に男女四人、倉橋島村に女一人、瀬戸島村に女二人、渡子島村に男女四人、佐伯郡大野村男女四人、大柿村に女二人、豊田郡御手洗町男女二人、大長村に女一人、御調郡向島西村に女一人、沼隈郡浦崎村に男一人、鞆町に男一人、百島村に男女二人、安那郡川北村に男女七人あり（廣島縣）

徳島縣　三月十六日屆出の天然痘患者は名東郡齋津村、加茂名村、那賀郡羽の浦村、中野島村、名西郡石井村各々一人、板野郡大津村二人、同郡鳴門村、阿波郡伊澤村各々一人、三好郡庄村九人、計十八人」同十七日同板野郡撫養町一人、美馬郡脇町三人、江原村一人、郡里村四人、穴吹村一人、三好郡三庄村一人、計十一人なり（徳島縣）

香川縣　小豆郡三都郡大字神浦に去月二十六日男一人、同郡淵崎村大字上庄に本月五日男一人香川郡安原村大字安原下に同八日女一人、天然痘に山田郡坂の上村大字坂元に同一日男一人、類似痘にた小豆郡大部村大字小部に同十日男一人假痘に罹りる旨屆出たり（香川縣）

高知縣　安藝郡畑山村に於て三月七日男一人、同郡井の口村に同九、十一兩日男二人、長岡郡天坪村に同八日男一人孰も天然痘に罹れり（高知縣）

大分縣　三月十三日屆出の天然痘患者は下毛郡大江村同三保村に各々一人なり（大分縣）

熊本縣　熊本市に於て三月八日男一人天然痘に罹れり（熊本縣）

鹿兒島縣　鹿兒嶋郡吉野村に三月八日女一人天然痘に罹り同十三日死亡又鹿兒嶋港より大島に向ひ航海中滊船球陽丸水夫一人同五日同病に罹れり（鹿兒嶋縣）

東京下谷區練塀町四十三番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行人　田中徳三郎

東京麴町區上二番町四十三番地
印刷人　八木吉六

第一金曜日發行

（定價金拾錢）

神田區旅籠町廣業館印刷

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN